

人道のまちづくりに向けて

八百津町
教育委員会

1. はじめに

八百津町出身の杉原千畝氏は、リトアニアの領事館在任中に、ナチス・ドイツの迫害から逃れてきた人々に対して、外務省の訓令に反して大量のビザを発給し、数千人の命を救ったことで知られています。このような人道精神は、町の宝であり、現在、そして未来に向けて、町民が主体的に守り引き継いでいくものです。

町ではこれまで、杉原千畝記念館や人道の丘公園の建設および運営を行い、人道教育を推進してきました。また、学校においても杉原氏の精神を継承するための学習を進め、人道創作劇の公演を行ったり、他地区の学校との交流を行うなど、人道教育(人権教育)の推進を行っています。

今年度は、町内の小中高校生の代表が集まる児童生徒会サミットでも、いじめをなくすための取り組みや各校の杉原千畝氏にかかわる学習の交流をしました。今回は、その内容について報告いたします。

2. 児童・生徒会サミット28より

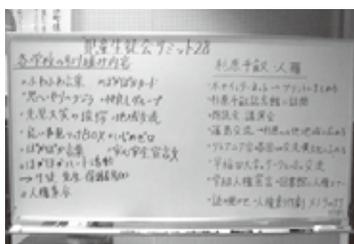
8月2日(火)に、ファミリーセンター大研修室において、各校代表の25名の討論を行い、保護者をはじめ地域の方150名ほどの参観がありました。



まず、各学校がそれぞれ行っているいじめ撲滅に向けての取り組みを交流しました。挨拶や言葉がけなどの日常生活の大切さや、「ぼかぼか小学校」「安心安全宣言」のような目標を設定して取り組むことが効果を上げているなどの報告がありました。また、異年齢交流や地域の方との交流で、いろんな年齢層の方とふれあうことで、相手を思いやる意識が高まるのではという提案もありました。

その後、各学校での「杉原学習」の様子や成果についての交流も行いました。

八百津東部中学校の敦賀や東京での研修の様子や、八百津小学校の人道創作劇「メノラの灯」の実践



▲サミット話し合いの記録

を中心に交流しました。

会の終わりには、来賓のリトアニア・カウナス市教育文化委員長のイナ・プクリテさんよりご講評をいただき、各学校のいじめ撲滅の取り組みに興味を持たれたことや「杉原さんの思いを未来につなげていってほしい。」とのお話がありました。



3. 閉会宣言

「いじめをしないようにしましょう。」という働きかけと同時に、今日の交流であったように、普段からの挨拶・声かけなど、相手意識を持った生活が学校生活を楽しいものにするにあらためて気づきました。そのことがいじめをなくすことにつながります。

また、杉原さんは世界的に認められる功績を残されたわけですが、自分ではない誰かのことを真剣に考えるとといった基本的なことがスタートだったと思います。私は、「一人一人がお互いを認め合う社会」であれば、いじめもなくなると思います。

学ぶべき杉原スピリットは、まず「目の前の人を想う」ことだと思います。そして八百津で生活するものとして、さらに杉原さんを学びましょう。今日参加した私たちがリードして、そんな八百津町にしていきましょう。

4. おわりに

サミット後にNPO法人ホロコースト教育資料センター代表の石岡史子先生から「杉原千畝～助けられた命のメッセージ～」と題し講演をしていただきました。その中で、

八百津の児童生徒へ「日頃から人の命の大切さを話し合っている八百津のみなさんなら、何かあったときに力を合わせて助け合えるのではと感じた。」とお言葉をいただきました。

「杉原学習」を深めることは“人道のまちづくり”を進めるうえで大変重要であることを、改めて学ぶことができた会になりました。

ご参観いただきました町民のみなさま、本当にありがとうございました。

